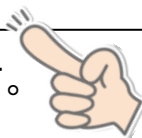


大麦栽培管理情報(第2号)

平成30年10月
アルプス農協管内農業技術者協議会

高品質麦の安定生産には、「排水対策の徹底」が最も確実で近道です。
随時排水溝の手直しを行い、湿害を回避しましょう。
また分施体系の場合は、播種後1ヶ月頃を目安に追肥を施用し、年内生育量の確保に努めましょう。



1. 排水対策の再確認

排水溝は、**収穫時まで随時手直しを行い、根張りの向上を図りましょう!**



- 排水溝が排水口まで連結されているかを再度確認し、圃場内に水が溜まらないよう、随時手直ししましょう。
- 降雨後に停滞水が残る場合は、溝を深く掘り下げたり、新たな溝を掘るなどして、早急に圃場外へ排水しましょう。



2. 年内追肥(分施体系)

- 越冬前に適正な生育量を確保するため、播種後1ヶ月頃の追肥を施用しましょう。

施肥時期	肥料名	施用量
播種後1ヶ月頃 (11月上旬頃)	硫安つぶっこ	20kg/10a

※LP大麦48号を施用している場合は必要ありません。

以下の場合には各営農経済センターへご相談下さい。

- LP大麦48号が規定量入らず、茎数が少なく葉色が淡い場合
- 分施体系で12月上旬に茎数が少なく(500本/m²以下)、葉色が淡い場合